

国語科における評価のポイント

理論編

- 1 国語科の特性とは？
- 2 国語科の特性からみた評価の在り方
- 3 確かな言語能力を身に付けるために大切にしたいことは？
- 4 具体的な評価方法の工夫（その概要とポイント）

実践編

国語科における評価の実際・・・

段落の指導を第3・4学年で重点的に取り扱った実践例

- 1 評価を生かした単元学習指導の展開
- 2 重点化を図った単元指導の構想
- 3 重点化を図る学習指導案のポイント

資料編

- | | | |
|---|------|-------------------|
| 1 | 第3学年 | 指導案「本時の展開」例 |
| 2 | 第3学年 | 語句に着目させるワークシート例 |
| 3 | 第3学年 | 授業の様子 |
| 4 | 第4学年 | 単元の観点別評価表 |
| 5 | 第4学年 | 重要語句に着目させるワークシート例 |
| 6 | 第4学年 | 自己評価カード例 |

国語科の基礎・基本と指導に生きる評価

理論編

1 国語科の特性とは？

国語科の基礎・基本の確実な定着を図るためには、児童の学習状況を客観的に評価し、児童の言語能力を把握することが大切である。そして、指導に生かすための具体的な評価規準や評価方法をもって、授業に臨むことが大切である。

国語科は、言語を学習する教科です。つまり、授業を通して、児童の言語能力を育てる教科です。1時間1時間の授業で「つけたい力」を明らかにし、国語科の学習指導要領のA「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」、C「読むこと」の3領域に示された指導事項を確実に指導することを通して、児童に確かな言語能力を身に付けさせることが重要です。

(1) 国語科教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 小学校学習指導要領より -



国語科の評価の5観点及びその趣旨

- 国立教育政策研究所教育課程研究センター
「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」より -

国語への関心・意欲・態度

国語に対する関心を持ち、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。

話す・聞く能力

自分の考えを豊かにして、相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりする。

書く能力

自分の考えを豊かにして、相手や目的に応じ、筋道を立てて文章に書く。

読む能力

目的に応じて読み取ったり読書に親しんだりする。

言語についての知識・理解・技能

表現及び理解の能力の基礎となる発音、文字、語句・文・文章等について理解し、習熟している。書写では、文字を正しく整えて書く。

◆学習指導要領には、2学年まとまりで示されているので・・・

(2) 基礎・基本の定着と特色ある国語科の授業づくり

- ・言語活動の多様化を図る。
- ・学校図書館や読書指導との関連を図る。
- ・他教科との関連を図る。
- ・「総合的な学習の時間」・生活科との関連を図る。
- ・2学年まとまりと指導の重点化（それぞれの学年で取り上げる内容を具体化）

国語科年間指導計画の作成

各学校の実態に応じた実践的な年間指導計画の作成が求められる。

2 国語科の特性からみた評価の在り方

計 画

基礎・基本の確実な定着を図るための学習指導のポイント

確かな言語能力の育成

系統的・
段階的

重点的

(2学年のまとまりの中で)

螺旋的・
反復的

学習指導要領

年間指導計画・評価計画の作成

言語活動例の具体化

個に応じた指導

学校図書館等の計画的な利用

指導に生きる評価・学びの意欲につながる評価

意図的

計画的

図①

児童の学習実態に応じて・・・
「つきたい力」を明らかにして・・・

具体化

実 践

授業の実践

(実践編参照)

評 価

3 確かな言語能力を身に付けるために大切にしたいことは？

(1) 国語科の学習は、指導内容が系統的・段階的に示されているので、螺旋的・反復的に繰り返し学習することを基本とする。

国語科は、児童の発達段階や中学校との関連を配慮しつつ、学校や児童の実態に応じて重点的に指導することができるように各学年の目標は、2学年まとめて示されています。2学年まとまりの中で重点的に指導する内容をとり上げ、確かな国語の力の定着を図ることが大切です。つまり、螺旋的・反復的な学習を展開し、基礎・基本の確実な定着をめざすためには、学習指導要領に書かれている目標及び内容の「何を」「どのように」指導するのかという指導計画をしっかりと立てることが重要です。また、児童が「どの程度」身に付けているのかを教師が、的確に把握することも必要です。

(2) 国語科の基礎・基本は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」に示された「言語活動例」を通して指導する。

基礎・基本の定着を図るためには、学習指導要領の「内容の取り扱い」に挙げられている言語活動例を授業展開の中で具体化することが大切です。言い換えれば、各学年の系統性を視野に入れて、言語活動例を生かしながら螺旋的に高めることができるような学習指導計画を工夫することです。

言語活動例

A 「話すこと・聞くこと」の言語活動例

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
A 「話すこと・聞くこと」	ア 尋ねたり応答したりすること	ア 身近な話題についてスピーチをすること	ア 自分の考えを資料を提示しながらスピーチをすること
	イ 自分が体験した事などについて話をする事	イ 要点などをメモに取りながら聞くこと	イ 目的意識をもって友達の考えを聞くこと
	ウ 友達の話を聞くこと	ウ 身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすることなど	ウ 調べた事やまとめた事を話し合うことなど
	エ 読んだ本の中で興味をもったところなどを紹介することなど		

B 「書くこと」の言語活動例

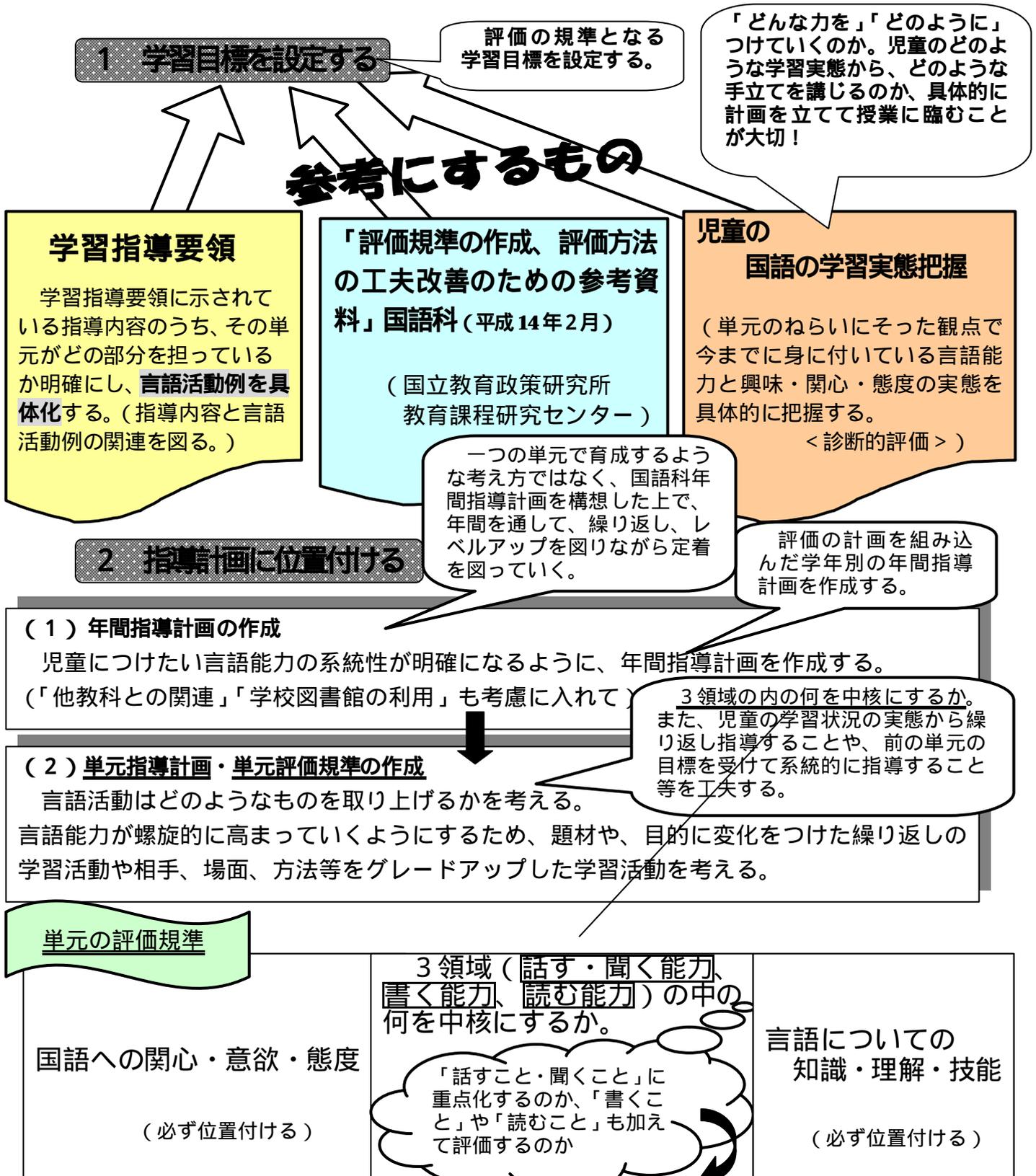
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
B 「書くこと」	ア 絵に言葉を入れること	ア 手紙を書くこと	ア 礼状や依頼状などの手紙を書くこと
	イ 伝えたい事を簡単な手紙などに書くこと	イ 自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること	イ 自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと
	ウ 先生や身近な人などに尋ねた事をまとめること	ウ 経験した事を記録文や学級新聞などに表すことなど	ウ 経験した事をまとめた記録や報告にすることなど
	エ 観察した事を文などに表すことなど		

C 「読むこと」の言語活動例

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
C 「読むこと」	ア 昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと	ア 読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと	ア 読書発表会を行うこと
	イ 絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと	イ 疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど	イ 自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むことなど
	ウ 自分の読みたい本を探して読むことなど		

4 具体的な評価方法の工夫 (その概要とポイント)

図①の具体化



各教材や各単元等で学習する目標や学習内容を従来以上に**重点化**する。例えば・・・

- 低学年・・・正しい発音・発声、音読
- 中学年・・・音読、指示語・接続語、段落相互の関係
- 高学年・・・人物の気持ちの読み取り、語感・言語感覚

予想される児童の実態を踏まえて具体的に構想する。

(3) 単位時間の指導計画・評価規準の作成

重点的に育てたい力を、単元の教材に即して、具体的に設定する。

「どの領域」の「どの指導内容」を目標とするのか。「どのような場面で」「何について」「どのような方法で」「どのような支援・指導をするのか」を明らかにしておく。

「おおむね満足できる」評価規準を明確にし、「努力を要する」児童や「十分満足できる」児童への手立てを講じる。

児童の具体的な学習状況の姿で明確にする。

自己達成感を味わい、「次の時間は、こんなことにがんばろう。」という次の意欲につながる評価とする。

(4) 自己評価・相互評価を学習過程に位置付ける。

その単元・時間を通して、どんな力を育て、伸ばしたいのかを明確にし、規準となる観点を明らかにする。それに基づいて、自己評価・相互評価の評価活動を計画する。継続的に行い、児童に自己評価力をつけていくことが大切であるが、そのためには、児童に具体的に、自己評価・相互評価の観点や内容を示しておくことが大切である。

「いつ」「誰が」「どのような基準で」「どのように行うのか」明確にする。

3 評価する

指導と評価の一体化
児童の学習状況を適切に評価し、次の指導に生かすことが大切！

(1) 多様な評価方法による情報収集

学習の実現状況をできるだけ偏りなく把握するために、評価の場面や、評価規準、児童の発達段階に応じて多様な評価方法を選択し、より客観性の高い評価を行うようにする。

客観性・信頼性を保つため、授業中の児童の様子を記録に残すようにする。

ペーパーテスト、ワークシート、学習カード、行動観察、質問紙、作品、音声表現、録音・録画、ノート、レポート、会話・つぶやき・発言、振り返りカード、etc

自己評価・相互評価

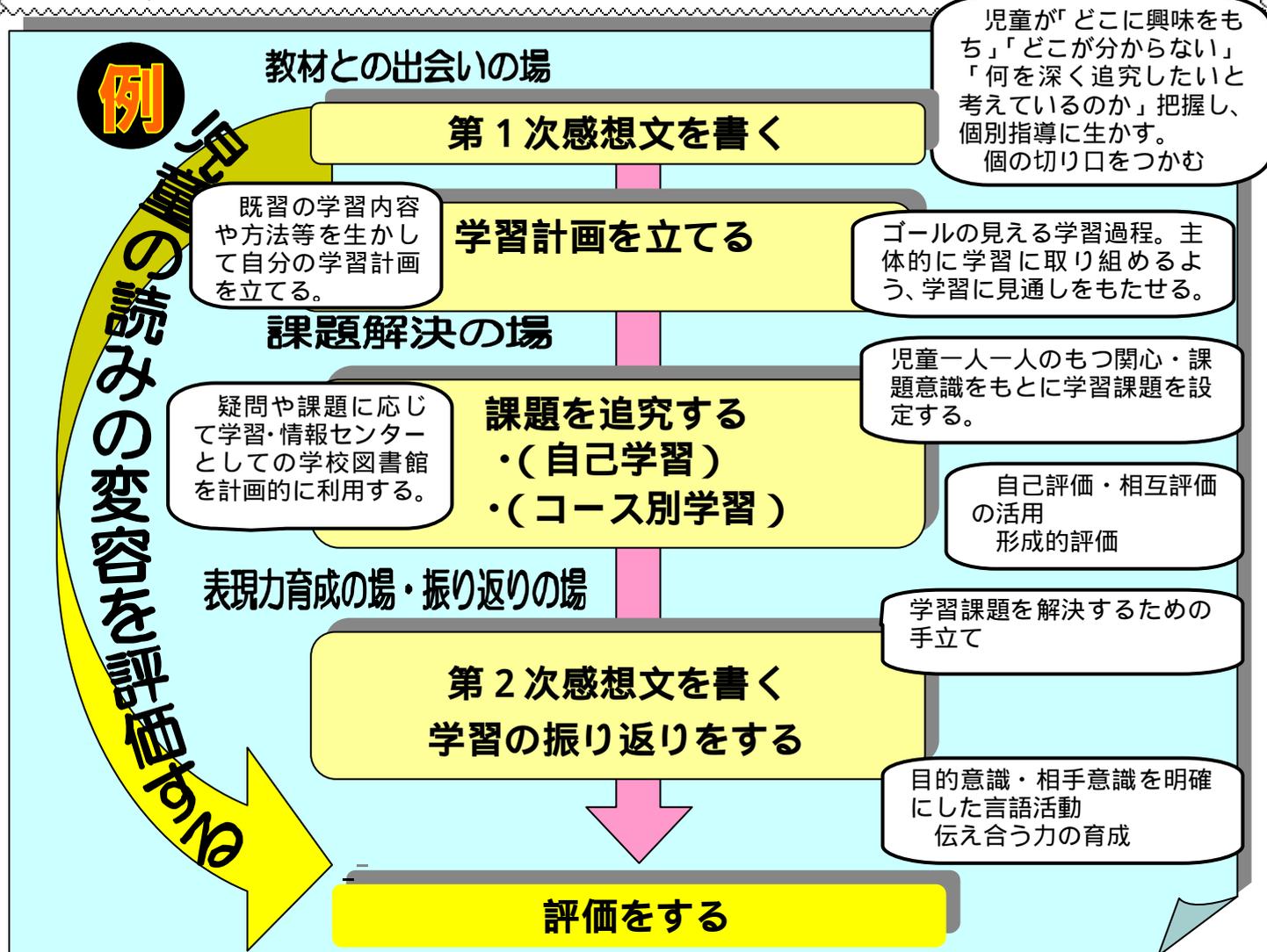
- ・自己評価・相互評価は、児童にとっては、学習活動である。評価規準を参考に自己評価する項目を設定し、自己の学習の様子を振り返らせる。
- ・自己評価は、「学習内容の確認、自己評価力をつけること」にねらいをおき、相互評価は、「学習内容の確認、他を認め、尊重する態度の育成、自己評価力をつけること」にねらいをおく。
- ・教師が把握しにくいグループでの話し合いの様子をとらえたいときは、相互評価カードを活用し、自己評価カードと併用して評価の参考とするとよい。授業中の観察、ワークシート等を組み合わせることで、よりの確な評価が行える。
- ・多様な情報を得るために自由記述の欄を設けるとよい。
- ・自己評価カード・相互評価カードを事前に提示すると、学習のねらいが明確になる。

(2) 指導と評価の一体化(形成的評価)

計画 実践 評価 見直し 改善 計画・・・という一連のサイクルにより基礎・基本の確実な定着を図るようにする。指導の調整、個別指導、補充指導に生かす。

1 評価を生かした単元学習指導の展開

基礎・基本を確実に定着させ、児童に自ら学び、自ら考える力を身に付けさせるために、学習計画を立てるときは、児童が課題をもって学習に臨むことができるような導入の仕方を考え、評価することにより、教師が児童の学びを確かめ、個に応じた指導を展開するという指導に生きる評価の在り方を工夫することが大切である。



第3学年実践例

<第3学年 下> 大阪書籍
(単元名) しょうかいしたい本をえらんで
(教材名) 「がんばれわたしのアリエル」

読むこと

第4学年実践例

<第4学年 下> 東京書籍
(単元名) 「環境を守るくふう」をしょうかいしよう
(教材名) 「ウミガメのはまを守る」

書くこと

読むこと

2 重点化を図った単元指導の構想

<第3学年;下> 大阪書籍
(単元名) しょうかいしたい本をえらんで
(教材名) 「がんばれわたしのアリエル」 **読むこと**

内容の中心を
とらえる読み

<読むこと> **第3学年 単元構想**

指導の系統性

(第1学年及び第2学年)
時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

(第3学年及び第4学年)
目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え文章を正しく読むこと。

第3学年 大事なことを見付けながら読もう

中心となる語や文を見付けながら文章を読む。

「つり橋わたれ」

場面ごとに、大事な語や文に注目し、登場人物やまわりの様子を読み取る読み方を工夫する。

「動物たちのしぐさ」

文章を3つのまとまりに分ける。
書かれていることを正しく読み取り整理する。

中心となる語や文を
とらえて文章を
正しく読む。

指導の重点化を図る

第3学年 読みたい本をえらぼう
母さんの歌

読みたい本を自分で選んで読書しようとする。
意欲と習慣を育てる。

第3学年 しょうかいしたい本をえらんで

読んだ内容に関連する本をさがして読んだり、友達と本の内容を紹介しあったりして読書生活を楽しむ。

「やまんばのにしき」

・人物の言動を通して、登場人物の思いや人がらを読みとる。

「がんばれわたしのアリエル」

・場面の要点をまとめ、正確に読み取る。
・登場人物の様子からその思いを想像する。

「読書ゆうびんを出し合おう」

・読書生活の幅を広げる。

中心語句や中心文をとらえたり、部分をもたたりして、言葉への気付きを大切に学習に重点を置いて「読むこと」の学習を進める。

第3学年 想像したことを出し合って

説明文の学習で読み取った内容を確認、発展させ、形に残る作品を制作する。

「自転車の活やく」

文章全体の構成を考えて読み取る。

段落ごとにその要点をまとめ、段落のつながりを考える。

「乗り物詩画集を作ろう」

読み取ったことを参考にして作品

制作をする。

第3学年 自分の力で

身に付けた国語の力を生かして自分で学習を進めるとともに、自分の学力を確かめて、四年生へ向けての学習意欲をもつ。

「マーリャンとまほうの筆」

(第4学年) 段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

(第5学年及び第6学年) 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

<第3学年 下> 大阪書籍
(单元名) しょうかいしたい本をえらんで
(教材名) がんばれわたしのアリエル

読むこと

第3・4学年の「読むこと」の内容

C(1)イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。
ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。

単元の指導目標

(国語への関心・意欲・態度)

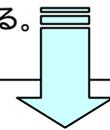
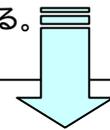
- ・ ノンフィクション文学に興味をもち、意欲的に読もうとする。
- ・ 友達と読んだ内容について話し合うことを通して、感じ方や考えの違いに気付いて自分の読みを見つめ直すようとしている。

(読む能力)

- ・ 場面の要点をまとめ、内容を正しく読む。
- ・ 文章を基に、情景や登場人物の気持ちを想像しながら読む。

(言語についての知識・理解・技能)

- ・ 必要な語句の意味を国語辞典を使って調べる。



単元の評価規準

「がんばれわたしのアリエル」の場面ごとの内容を正しく読み取り、文章を基に場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読んでいる。

図書館の利用の仕方について知り、学習を生かしてノンフィクション文学を読んでいる。

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・ 図書館の利用の仕方を知り、読みたい本(ノンフィクション文学)を探して読もうとしている。・ 友達との意見交流を通して、自分の読みを見つめ直すようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・ 場面を要点にまとめながら正確に読んでいる。・ 教材文を基に場面の様子や登場人物の気持ちの変化を想像しながらよんでいる。	<ul style="list-style-type: none">・ 重要語句や意味の分からない言葉を国語辞典を使って調べている。

単元指導計画に具体化する

1 単位時間に具体化する

評価を常に指導に生かす視点

学習の過程における評価を一層重視

児童の学習状況を的確に評価できる方法を選択

児童が学習状況を確認し、次の学習に意欲的に進める自己評価 相互評価

<第4学年;下> 東京書籍
(单元名)「環境を守るくふう」をしようかいしよう
(教材名)「ウミガメのはまを守る」

書くこと

読むこと

叙述内容に即した読みを中心に!

<読むこと> 第4学年 单元構想

指導の系統性

(第1学年及び第2学年)

時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

(第3学年及び第4学年)

目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

第3学年 6月 「自然のかくし絵」

第3学年 11月 「つな引きのお祭り」

3年生では、書かれている内容をまとまりごとに正確に読み取る学習を中心の目標とする。

第4学年 だん落とだん落の関係を考えて「ヤドカリとイソギンチャク」

指示語や接続語を手がかりに段落相互の关系到気をつけながら読む。

既習の内容や方法を生かす

段落相互の関係を考え読み取る学習

指導の重点化を図る

第4学年 「環境を守るくふう」をしよう
「ウミガメのはまを守る」

事柄のまとまりごとに文章を正しく読み取る。

(形式段落の要点をつかむ)(大きなまとまりに小見出しをつける)

段落相互の関係、指示語・接続語の指導は、中学年で!

文章全体を構成している段落、段落と段落との関係、全体と部分とのつながりをとらえ、大事なところ、書き手の主張、叙述の仕方等を正確にとらえる学習に重点を置いて「読むこと」の学習を進める。

第4学年 暮らしの中の世界について話し合おう
「暮らしの中の和と洋」

対比されていることに注意して文章の要点をとらえる。

内容を大きなまとまりでとらえたり、大事な語句に注意したりしながら読むことを目標とする。

(第5学年及び第6学年)

目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

第3・4学年の「書くこと」の内容

- B(1)イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。
ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。

第3・4学年の「読むこと」の内容

- C(1)イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

単元の指導目標

(国語への関心・意欲・態度)
読み取った内容を広げ、地域の環境について意欲的に情報収集し、紹介する。

(書くこと)
事柄ごとのまとまりを意識して書く。

(読むこと)
事柄のまとまりごとに文章を正しく読み取る。

(言語についての知識・理解・技能)
段落の役割を理解し、文と文との意味につながりを考えて、接続語を考える。

評価規準の作成

単元における内容のまとまりごとの評価規準

「ウミガメのはまを守る」を叙述に即して内容を正しく読み取り、学習したことを生かして情報を集めたりレポートに書いたりする。

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・環境保護の活動に興味をもちながら読み、身近な地域での環境を守る工夫について、情報を収集し、自然環境保護に対する自分の考えを紹介しようとしている。・調べたことをカードに整理し、目的や相手を考えて書き方を工夫しようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・課題に応じて情報を集める方法を選び、調べたことを項目ごとにカードに整理して記録している。・調べたり、インタビューしたりした事柄が読み手にわかりやすく、また、段落相互のつながりがわかるようにレポートの文章構成や書き方を工夫して書いている。	<ul style="list-style-type: none">・教材文を読んで各段落の要点や段落相互の関係をつかみながら内容を読み取り、文章構成を理解している。・自分の課題を調べるために、必要な資料を選び、内容を大きくまとめたり、必要なところは細かいところに注意したりしながら読んでいる。	<ul style="list-style-type: none">・必要な語句について辞書を活用して調べる等、漢字や言葉の意味を理解している。・レポートを書くときに、文と文との接続や段落のつながりに気をつけて、接続詞を使ったり、改行をしたりして書いている。

3 重点化を図る学習指導案のポイント

国語科学習指導案

- 1 対象 第4学年
- 2 日時 平成15年11月11日(火)第5校時
- 3 場所 4年2組教室
- 4 単元名 「環境を守るくふう」をしょうかいしよう(東京書籍4年下)
- 5 教材名 「ウミガメのはまを守る」
- 6 単元設定の理由
- 7 児童の実態
- 8 単元の指導目標

学習指導要領の目標及び内容を受けて、単元の構想に応じた指導目標を設定する。3領域の何を中核に据えるのか明らかにする。

読み取った内容を広げ、地域の環境について意欲的に情報収集し、紹介する。

(国語への関心・意欲・態度)

事柄ごとのまとまりを意識して書く。(書く能力)

事柄のまとまりごとに文章を正しく読み取る。(読む能力)

段落の役割を理解し、文と文との意味のつながりを考えて、接続語を使う。

(言語についての知識・理解・技能)

9 単元における内容のまとまりごとの評価規準

この単元で、「つきたい力」はどんな力なのか。「どんな内容を書かせたいのか。」明確にし、具体的に個に応じた指導ができるようにする。

単元における内容のまとまりごとの評価規準

「ウミガメのはまを守る」を叙述に即して内容を正しく読み取り、学習したことを生かして情報を集めたりレポートに書いたりする。

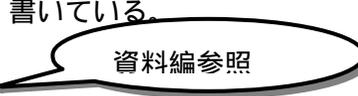
国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知 識・理解・技能
・環境保護の活動に興味をもちながら読み、身近な地域での環境を守る工夫について、情報を収集し、自然環境保護に対する自分の考えを紹介しようとしている。 ・調べたことをカードに整理し、目的や相手を考えて書き方を工夫しようとしている。	・課題に応じて情報を集める方法を選び、調べたことを項目ごとにカードに整理して記録している。 ・調べたり、インタビューしたりした事柄が読み手にわかりやすく、また、段落相互のつながりがわかるようにレポートの文章構成や書き方を工夫して書いている。	・教材文を読んで各段落の要点や段落相互の関係をつかみながら内容を読み取り、文章構成を理解している。 ・自分の課題を調べるために、必要な資料を選び、内容を大きくまとめたり、必要ところは細かいところに注意したりしながら読んでいる。	・必要な語句について辞書を活用して調べる等、漢字や言葉の意味を理解している。 ・レポートを書くときに、文と文との接続や段落のつながりに気をつけて、接続詞を使ったり、改行をしたりして書いている。

この単元では、「書くこと」を主なねらいとし、「読むこと」との関連を図るとともに、読書やインタビューによる情報収集能力を育てることもねらっている。教材文を読むときには、調べたり、書いたりするときの視点を意識させるようにして指導することが大切である。

10 単元の指導と評価の計画

次	時	指導内容と 指導過程	学習活動	学習活動における具体の評価規準と評価方法等		
				評価規準と 評価方法	十分満足できると判断した 児童の状況	努力を要すると判断される 状況への手立て
1	1	<p>題名から内容について考え、教材文の構成について考えさせる。全文を読み、感想を交流させる。</p> <p>(1)</p> <p>少人数授業開始</p>	<p>・題名読みをし、教材文の内容を予想する。</p> <p>・全文を読み、感想を交流し、学習に見通しをもつ。</p>	<p>(関)</p> <p>題名から教材文に書かれていることに見通しをもち、発表しようとしている。</p> <p>(発表、ワークシート)</p>	<p>教材文に興味をもち、環境に関して自分なりに読みのめあてをもった感想を書いている。</p>	<p>「どの場面でのどのような支援を行うか」教師の働きかけによる子どもの反応を予想し、そこから目標に向かわせるための支援を考える。</p> <p>ウミガメの写真や話、地域の環境問題について話し、題材のイメージがもてるようにする。</p> <p>全文を通読し、思ったことや感じたことを短い言葉で発表させる。</p>
			<p>「どんなことに興味を示し、どんな感想をもったか、一人一人の子どもの切り口をつかむ。」</p>			
2	5	<p>「ウミガメのはまを守る」を3つのまとまりに分け小見出しを付けさせる。</p> <p>(1)</p>	<p>「ウミガメのはまを守る」を大きく3つのまとまりに分け小見出しを付ける。</p>	<p>(読)</p> <p>根拠となる語句や文章に着目しながら、小見出しを付けている。</p> <p>(発表、ワークシート)</p>	<p>教材文を読み、段落ごとに中心となる語句や文をとらえたり、接続語や指示語に着目したりしながら読み、小見出しを付けている。</p>	<p>1行空きに気づかせ、3つのまとまりに分けて文章構成上の役割を確認する。「ウミガメのはまを守る」を入れて小見出しを付けるように示唆する。</p>
		<p>ウミガメの保護に乗り出す経緯を読み取らせる。</p> <p>(2)</p>	<p>ウミガメの保護に乗り出す経緯を読みとる。</p>	<p>(読)</p> <p>重要語句や中心文章を書き出して、ウミガメのはまを守るようになったわけを読み取っている。</p> <p>(発表、ワークシート)</p>	<p>形式段落ごとに重要語句や要点を書き出したり、「そのため」の「その」に着目したりして、ウミガメのはまを守るようになったわけを読み取っている。</p>	<p>大事だと思うところに線を引きながら繰り返し読むようにさせる。</p> <p>接続語が示している事柄に着目できるように支援する。</p>
		<p>重要語句や中心文章を書き出して、保護監視員の保護活動を読み取らせる。</p> <p>(3)(本時)</p>	<p>保護監視員の保護活動を読み取る。</p>	<p>(読)</p> <p>重要語句や中心文章を書き出して、保護監視員の保護活動を読み取っている。</p> <p>(発表、机間指導、ワークシート)</p>	<p>題名と結びつけて述語(動詞)に着目したり、重要語句や中心文章を書き出したりして保護監視員の保護活動を読み取っている。</p>	<p>5W1Hに線を引きながら、読ませる。</p> <p>「書く活動」に結びつけられるよう、叙述の仕方にも目を向けさせるようにする。</p>

		<p>地元の小学生の活動を読み取らせる。 (4)</p>	<p>地元の小学生の活動を読み取る。</p>	<p>(読) 地元の小学生の活動を読み取っている。 (発表、ワークシート)</p>	<p>5W1Hに着目しながら地元の小学生の具体的な保護活動を読み取っている。</p>	<p>「保護する」「守る」活動につながる言葉に着目させ、小学生の活動を読み取らせるようにする。</p>
		<p>町の人々の願いを読みとり、筆者が御前崎の人々にした質問を推測させる。 教材文の構成について考えさせる。 (5)</p>	<p>町の人々の願いを読みとり、筆者が御前崎の人々にした質問を推測する。 筆者の思いや教材文の構成について考える。</p>	<p>(読) 筆者が御前崎の人々にした質問を推測している。 (読) 筆者の思いや教材文の構成について考えている。 (発表、ワークシート)</p>	<p>5W1Hを文中に使い、筆者が御前崎の人々にした質問を推測する。 筆者の思いや教材文の構成について考える。</p>	<p>5W1Hを文頭にして質問の内容を考えさせる。 本教材文で筆者が言いたかったことを考えさせるようにする。</p>
3	6	<p>身近な地域での「環境を守る工夫」について調べさせる。 (1) ティーム・ティーチング開始</p>	<p>身近な地域の中で「環境を守る」ことに関係する情報を紹介し合う。</p>	<p>(関) 自分たちの身近な環境保護の活動に興味をもって聞いている。 (ワークシート、観察)</p> <div data-bbox="1003 746 1339 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>子どもの発言やつぶやき、表情、行動等を観察する。</p> </div>	<p>自分たちの身近な環境保護の活動に興味をもち、メモをしている。 調べていくときの視点をもち、図書資料やインターネットなど様々な情報を活用している。</p>	<p>児童の体験や家庭で気を付けていることなど、身近な例に着目できるようにする。 インターネット使用時は「お気に入り」から探させるようにする。</p>
		<p>地域の中で行われている活動を知り、題材を決めさせる。 (2)</p>	<p>身近な地域の中で行われている活動の中から題材を選び、コースを決める。</p>	<p>(関) 自分の調べたいテーマを見つけている。 (ワークシート)</p>	<p>調べたい理由を明確にして選んでいる。</p>	<p>友達がテーマを選んだ理由を紹介し、選ぶ時の参考にさせる。</p>
		<p>書きたい事柄を抜き出し、情報の足りない部分を明らかにさせる。 (3) コース別学習開始</p>	<p>書きたい事柄を抜き出し、情報の足りない部分を明らかにする。</p>	<p>(書) 書きたい事柄を抜き出し、情報の足りない部分を明らかにしている。 (言) 難語句の意味を辞典などで調べている。 読み手に分かりやすい表現に書き換えている。</p>	<p>書きたい事柄を抜き出し、情報の足りない部分を明らかにしている。 情報を選択しながら、難語句の意味を調べている。 読み手に分かりやすい表現に書き換えている。</p>	<p>必要な資料にしぼらせるようにする。 難語句の意味を辞書で調べさせるようにする。</p>

		インタビュービデオを見て、足りない部分を知り、書きたい事柄を整理させる。 (4)	インタビュービデオを見て、足りない部分を知る。書きたい事柄を整理する。	(関) 環境保護活動に取り組む人の思いや願いを知る。 書きたい事柄を整理している。 (整理した資料) (ワークシート)	環境保護の活動に取り組む人の思いや願いに着目してメモをしている。 書きたい事柄を整理している。	「思います。」「考えています。」などの言葉に着目しながら聞くようにさせる。
		家庭でインタビューしてきた内容を整理させる。 (5)	インタビューしてきた内容を整理する。	(書) インタビューしてきた内容を整理している。 (ワークシート)	思いや考えに着目しながら、インタビューしてきた内容を分かりやすく整理している。	「～だそうです。」等の書き方をするようにさせる。
		情報メモを整理しながらレポートの構成を考えさせる。 (6)	「ウミガメのはまを守る」やてびきの例文を参考に、レポートの構成を考える。	(書) 写真やイラストを入れるなどの工夫をしながら構成を考えている。(レポート)	文章の他に、表や図を加えて、読み手を引きつける工夫をしている。	レポートに関係のある絵や写真を入れさせる。
4	4	集めた情報メモを整理して、レポートを書かせる。 (1)	事柄のまとまりを意識して「わたしたちの環境レポート」を書く。	(書) 事柄ごとのまとまりを意識して書いている。 (レポート)	接続語や段落のつながりを意識し、事柄のまとまりと構成を考えながら書いている。	指示語や接続語の使い方に着目させ、教材文を参考にしながら書かせる。
		書いた文章を読み合い、書き直すとよいところを見つけさせる。 (2)	書いた文章を互いに読み合って、書き直すとよいところを見つける。	(書) 友達の書き方を参考にし、自分の書いた文章で手直しするとよいところを見つけている。(レポート、相互評価カード)	読み手に分かりやすくすることを意識しながら直している。	指示語や接続語の使い方などを個別に助言する。
		手直しが必要な場所を書き直したり、書き加えたりして文章を推敲させる。 (3)	手直しが必要な場所を書き直したり、書き加えたりしながら文章を完成する。	(書) より分かりやすい表現を考えながら、書き上げている。 (レポート、自己評価カード)	相手や目的に応じて適切に書いている。 	自分が一番伝えたいことを明らかにさせるようにする。
		「わたしたちの環境レポート」を発表しあい学習のまとめをさせる。 (4)	「わたしたちの環境レポート」を発表しあい学習のまとめをする。	(関) 自分で情報を集めていくおもしろさや、分かりやすく伝え合う楽しさを味わおうとしている。 (感想文、相互評価カード)	メモをとりながら発表を聞き、友達のレポートのよいところを見つけようとしている。	レポートを書いてみて分かったことや、新しく使うようになった表現の工夫を認められるようにする。

1.1 本時の目標

重要語句や中心文章を書き出して、保護監視員たちの保護活動を読みとる。(読む能力)

本時の展開例

少人数コース

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材 教具	評価
導入	・本時のねらいを確認させる。	一斉	・本時のねらいを読んで確認する。 ・保護活動を読みとる	二つ目のまとまりの小見出しを確認する。	ワークシート	
展開	・第7段落から第12段落までを音読させる。	グループ	・第7段落から第12段落までを音読する。			
	・ウミガメのはまを守るための活動が書かれているところに線を引かせる。	個別	・保護監視員の活動に線を引く。	・活動が書かれているところに線を引かせる。 (保護監視員という名詞と、守る活動につながる動詞(文末)に着目させてその活動を読みとらせるようにする。) ・机間指導で個別に指導する。		
	・ウミガメのはまを守るためにどのような活動をしているのかを発表させ、付箋紙に書かせる。	個別	・保護監視員の活動を発表し、付箋紙に書く。	・発表した内容をまとめながら、フラッシュカードで掲示していく。		ワークシート 付箋紙
・文と文との関係を整理させる。	個別	・5W1Hに着目しながら文と文との関係を整理していく。	・保護監視員の活動を、「いつ」「どこで」など5W1Hの範疇でくくり、グループ化しながら整理していくことで、段落の構成がとらえやすくできるようにする。 ・付箋紙を動かしながらグループを作らせるようにする。 ・「そして」などの接続語にも着目できるように留意する。		模造紙 フラッシュカード 付箋紙	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>机間指導 子どもの学習状況を把握するため、きめ細かく、観察、評価し、指導・支援する。</p> </div>

	・保護監視員の願いを読みとらせる。	個別	・保護監視員の願いを読みとる。	・願いの書かれているところに線を引かせ、筆者がインタビューした内容であるということに気づけるようにする。		
ま と め	・本時のねらいにもどり学習のまとめをさせる。	一斉	・本時のねらいと学習内容を確認する。		振り返りカード	
	・自己評価させる。	個別	・自己評価をして、本時の学習の振り返りをする。			

子ども自身が目標を意識し、自己評価できる時間を学習過程に組み込むようにする。

学習指導案

国語科学習指導案

- 1 対象 第3学年 男子 名 女子 名 計 名 (標準コース)
- 2 日時 平成15年11月5日(水)第3校時
- 3 場所 3年組教室
- 4 単元名 しょうかいしたい本をえらんで(大阪書籍3年下)(30時間)(第3学年11月)
- 5 教材名 「がんばれわたしのアリエル」(8時間)
- 6 本時の目標(17/30時間)(5/8時間)
 - ・ 4の場面とめぐみの様子から、めぐみの気持ちを想像しながら読んでいる。(読む能力)
- 7 本時の展開

	指導内容	主な学習活動	指導形態	指導上の留意点	具体的評価規準・評価方法			教材教具等
					おおむね満足できる状況	十分に満足できる状況	努力を要する児童への手立て	
導入	訓練所でのめぐみの気持ちを読み取ろう。							フラッシュカード
	・本時のめあてを確認させる。	・本時のめあてを読んで確認する。	一斉	・訓練所でのめぐみの様子を読み取り、要点をまとめることを確認させる。				
展開	・本時の場面を音読させる ・めぐみの気持ちを読み取れる言葉をワークシートに書かせる。	・4の場面を音読する。 ・めぐみの気持ちを読み取れる言葉をワークシートに書き、その時のめぐみの気持ちを想像する。	一斉・個別 個別	・めあてを意識しながら音読するよう助言する。 ・語句の書き方について指導する。	・めぐみの気持ちが表れている語句を抜き書きしている。	・めぐみの心のつぶやきやその他の語句からめぐみの気持ちを読み取り、想像して書いてい	・めぐみの心のつぶやきが表現されている語句に着目させるようにする。	

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4の場面のめぐみの気持ちの変化について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めぐみの気持ちが読み取れる語句をもとに、4の場面のめぐみの気持ちについて話し合う。 	一 斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表した語句をフラッシュカードに書きめぐみの気持ちの変容が分かるように板書を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句をもとにして、めぐみの気持ちを想像している。 (読む能力) (発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の様子をもとにめぐみの気持ちの変化とパピーウォーカーとして責任を果たせた満足感を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拍手がわき上がる前後の気持ちについて考えさせるようにする。 	フ ラ ッ シ ュ カ ー ド
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価をして本時の学習を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価をする。 	個 別					自 己 評 価 カ ー ド

学習のまとめ

名前)

めぐみがもうどう犬について調べたことを書きましよう。

めぐみが家に帰ってから
の家族との会話から考え
させるようにする。

パピーウォーカーになるために大事なことを書き出しましよう。

会話の中から重要な
言葉を精選でき
るようにする。

一 の場面をまよめましよう。

今日の学習をふりかえろう。(大事な言葉の見つけ方、場面のまよめ方、わかったこと、
考えたこと)

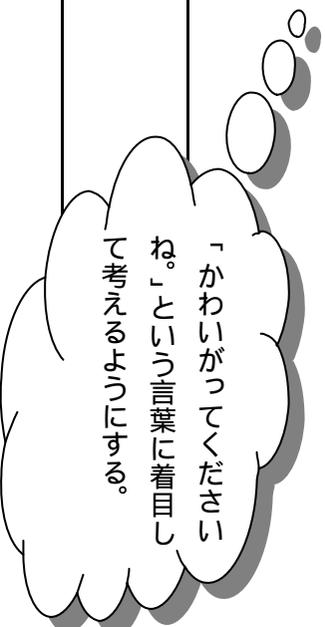
がんばれわたしのアリエル

学習のまとめ

名前

)

所長さんと訓練士のお姉さんのどんな気持ちがわかりますか。



めぐみは、アリエルにどんなことを言いたかったのでしょうか。

アリエルへの手紙の形で書きましょ。

盲導犬について調べたこと、家族
の話し合い、アリエルとの出会い
等からめぐみの思いを書かせる
ゆいゆいぬ。

今日の学習をふりかえろ。

(わかったこと、

考えたこと)

学習のまとめ (名前)

)

四の場面を知るために大事な言葉を書き出し、まとめましょう。

大事な言葉

四の場面のまとめ

アリエルが調べられる場面の様子を文章をもとに想像してみましょう。

四の場面のめぐみに手紙を書きましょ。

今日の学習をふりかえろう。(大事な言葉を見つけてまとめたことについて、わかったこと・考えたこと)

Blank rectangular box for student response.

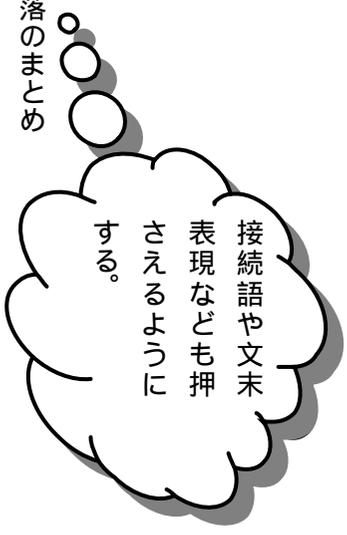
学習のまとめ

名前)

それぞれのだん落の大事な言葉を見つけて、まとめてみましょう。

第二だん落の大事な言葉

第二だん落のまとめ



A dashed rectangular box with a downward-pointing arrow in the center, indicating a transition from the second paragraph to the summary box.

A solid rectangular box intended for writing the summary of the second paragraph.

第三だん落の大事な言葉

第三だん落のまとめ

A dashed rectangular box with a downward-pointing arrow in the center, indicating a transition from the third paragraph to the summary box.

A solid rectangular box intended for writing the summary of the third paragraph.

今日の学習をふり返り

(大事な言葉を見つけてまとめたことや友だちの発表について)

A large rectangular box divided into four vertical sections by dashed lines, intended for reflecting on the day's learning and presentations.

授業の様子



「わきあがった」
は、「わきあがる」
で調べたらいいん
だね。

不安になったり
喜んだり・・・
めぐみの心の変化
がよくわかるね。



「この場面の大切な
言葉は何かな。」

アリエルと別れると
きのめぐみはどんな
気持ちだったでしょ
うね。



資料編

4年 重点指導事項

月	観点 單元名	国語への 関心・意欲・態度			書く能力					読む能力						言語についての 知識・理解・技能						
		話す・聞く	書く	読む	相手意識・目的意識	取材	構成	記述	推敲・評価	主体的な読み	段落相互の関係	要旨の理解	心情理解	事実と意見	情報活用	音読・朗読	漢字の読み・書き	指示語・接続語	主語・述語	漢字辞典	ローマ字	
四月	様子や気持ちが伝わるように																					
五月	知らせたい、あんなことこんなこと																					
六月	だん落とだん落の関係を考えて																					
十一月	「環境を守るくふう」をしようかいしよう																					
十二月	クイズ「ものの名前」																					

単元・教材の主な評価の観点と学習指導要領の指導事項を整理し、重点化を図る。

4年国語「ウミガメのはまを守ろう」

単元の観点別評価表

評価の観点	国語への関心・意欲・態度						書く能力						特記事項	
	1 1	3 - 1	3 2	3 - 4	4 - 4	観点別評価（総括）	3 - 3	3 - 5	3 - 6	4 - 1	4 - 2	4 - 3		観点別評価（総括）
時間														
本単元の重点														
学習活動における具体的評価規準	発表しようとしている。 題名から教材文に書かれていることに見通しをもち、 発表しようとしている。	自分たちの身近な環境保護の活動に興味をもって聞くこととしている。	自分の調べたいテーマを見つけている。	環境保護の活動に取り組む人の思いや願いを知ろうとしている。	自分で情報を集めていくおもしろさや、分かりやすく伝え合う楽しさを味わう。		集めた情報を整理し、伝わりにくい部分を資料などで補っている。	インタビューしてきた内容を整理している。	写真やイラストを入れるなどの工夫をしながら構成を考えている。	事柄ごとのまとまりを意識して書いている。	友達の書き方を参考にして自分の書いた文章で手直しするとよいところを見つけている。	より分かりやすい表現を考えながら、書き上げている。		
評価方法	ワーク 発表、	シート ワーク	シート ワーク	シート ワーク	感想文		資料 整理し	シート ワーク	ト レポー	ト レポー	ト レポー	ト レポー		
1	a	a	a	a	a	A	b	a	b	a	a	a	A	
2	b	a	a	b	b	A								
3														

・児童1は、「書く能力」の観点の6つの事項は、aが3つ、bが3つとなっている。このうち本単元の重点である「まとまりを意識して書く（記述）」と「手直しするとよいところを見つけている。（推敲）」がaであるので、この評価を2倍し、評価の集約はbabaaaabとなり、観点の総括は、Aとなる。
また、「書く能力」を評価する際には、完成した文章のみが評価の対象ではないので、留意する。

評価の観点		読む能力						言語についての知識・理解・技能				特記事項	
時間		2 - 1	2 - 2	2 - 3	2 - 4	2 - 5	2 - 5		3 - 3				
本単元の重点													
学習活動における具体的評価規準		根拠となる語句や文章に着目しながら、小見出しをつけている。	重要語句や中心文章を書き出して、ウミガメのはまを守るようになったわけを読みとっている。	重要語句や中心文章を書き出して、保護監視員の保護活動を読みとっている。	地元の小学生の活動を読みとっている。	筆者が御前崎の人々にした質問を推測している。	教材文の構成について考えている。	観点別評価(総括)	難易語句の意味を辞典などで調べている。 読み手に分かりやすい表現に書き換えている。	観点別評価(総括)			
評価方法		クシート 発表、ワー	クシート 発表、ワー	クシート 発表、ワー	クシート 発表、ワー	クシート 発表、ワー	クシート 発表、ワー		料 整理した資				
1													
2													
3													

「十分満足できる状況」や個人内評価において伸びが顕著であるものについては、記録・蓄積し、次の単元での指導や保護者等への説明材料として活用する。

ワークシート

ワークシート

ウミガメのはまを守る (名前)

まとまりに分けて、小見出しをつけてみよう。

一、この説明文は、大きく分けていくつのまとまりに分かれていますか。

			形式段落

三、それぞれのまとまりに、小見出しをつけてみよう。

ウミガメのはまを守る (名前) ()

ウミガメのはまを守るため、保護監視員はどんな活動をしているのだろう。

保護監視員の活動

- ・ キーワードを使って短い言葉でまとめられるようにする。
- ・ ウミガメを「**守る**」につながる動詞に着目させる。

保護監視員の活動を学習して、思ったことを書きましょう。

ワークシート

評価カード

自己評価カード例

わたしたちの環境レポート

自己評価カード

きょうの学習の「めあて」を書きましょう。」

わかりやすい文章になっているか読み直しをしてみよう。

書いた文章を読み直して自己評価する。

まとめりごとに整理して、書けていますか。

A B C

つなぎ言葉がうまく使えていますか。

A B C

必要な事柄を落とさずに書けていますか。(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように・・・など)

A B C

評価カードを使って、どんなところを見直せばよいのか推敲の視点を明らかにする。

相互評価カード例

わたしたちの環境レポート

相互評価カード

() さんの作文

調べたり、インタビューしたりしたことが読み手にわかりやすく書けているか。

(A) B C

このカードは、事前に配り、ねらいを明確にする。

段落と段落とのながり方や文末、5W1H等評価する観点を明らかにしてレポートを読むようにする。

友達の環境レポートを読んでよかったところを書きましよう。

相互評価することで、友達の文章のよいところを見付けたり、間違いに気付いたりし、自分の表現に生かしていくようにする。

- ・ 取材・構成・記述などの段階で評価意識をもたせることが大切である。相手・目的・意図に応じた表現になっているか視点を持たせて自己評価をさせる。
- ・ お互いのよさに着目したり、自分の表現の見直しをしたり、見直しをもったりできるように相互評価を活用する。